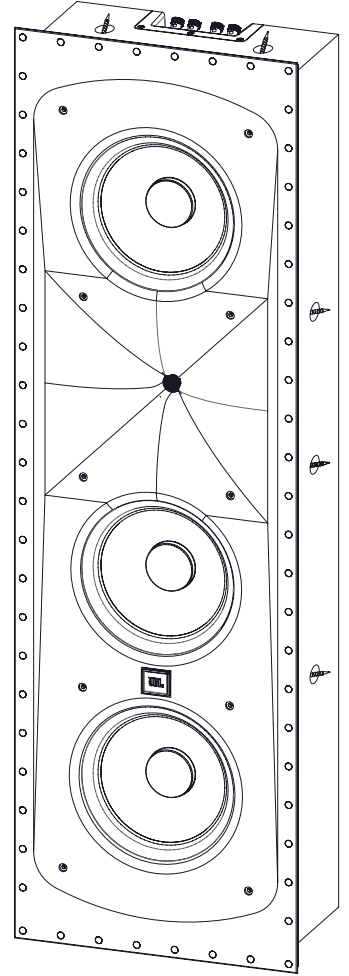




SYNTHESIS[®]



JBL[®] SCL-2

インウォール・ラウドスピーカー

取扱説明書

目次

はじめに.....	2
パッケージの中身.....	2
スピーカーの設置.....	3
左右のスピーカー.....	3
センターチャンネル・スピーカー.....	3
サラウンド・スピーカー.....	5
5.1チャンネル・システム.....	5
7.1チャンネル・システム.....	5
設置時の一般的な注意点.....	6
スピーカーのアンプへの接続.....	6
バックボックスの設置.....	8
バッフルの配線と設置.....	11
仕様.....	12

はじめに

JBL®SCL-2インウォール・ラウドスピーカーをお買い上げいただき、ありがとうございます。70年以上の間、JBLは世界中の家庭、コンサートホール、レコーディング・スタジオ、映画館向けのオーディオ機器を提供してきました。一流のレコーディング・アーティストやサウンド・エンジニアにJBL製品は長年選ばれ続けています。SCL-2はJBL Synthesis(シンセシス)ホームシアター・システムの最新モデルです。スピーカーから最高のパフォーマンスを引き出すために、この説明書をよくお読みください。

要注意:

SCL-2を設置するには、壁の奥行きが最低6インチ(152mm)必要です。

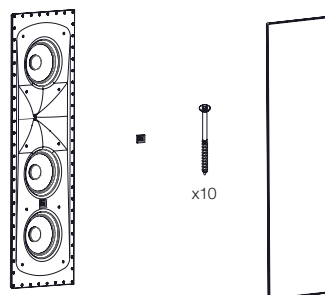
SCL-2は天井に取り付けて使用するのに適したスピーカーではありません。インシーリング・スピーカーに関する製品オプションについては、お近くのJBL Synthesis(シンセシス)公認販売店にご相談ください。

パッケージの中身

SCL-2は2個の内装箱を外装箱1個の中に入れて発送されます。

内装箱1(バッフル)の中身:

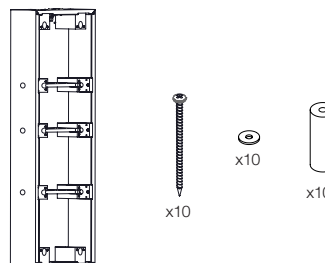
- SCL-2ラウドスピーカー・バッフル 1
- JBLロゴ 1
- バッフル用ねじ 10本
- グリル 1



内装箱1の中身:

内装箱2(バック・ボックス)の中身:

- バックボックス 1
- バックボックス取り付けねじ 10本
- ラバーブッシュ 10
- メタルワッシャー 10



内装箱2の中身:

発送時に損傷があったと思われる場合は、ただちに販売店にご連絡ください。後で使用できるように、箱とこん包材を取っておくことをお勧めします。

スピーカーの設置

ホームシアター並みの音響性能を達成するには、ラウドスピーカーの適切な設置が不可欠です。正しく適切な設置のアドバイスを得るには、以下のセクションをお読みください。

左右のスピーカー

SCL-2は、マルチチャンネル・システムのフロント左右のメイン・スピーカーとしてお使いいただく場合は最高の選択です。SCL-2スピーカーはサウンドを一定の範囲で最大限に行き渡らせるように設計されているので、俳優の声が画面上から直接出ていると感ぜられるように、スピーカーの中央が画面とほぼ同じ高さになるように設置します。スピーカー同士を離して、リスニング位置から見て約60°の角度で設置し、スピーカー間の距離が聴く人からの各スピーカーの距離と同じになる(図1)のが理想です。

音響の範囲としては、スピーカーは4方向(ホーンが上、ホーンが下、ホーンが2基のウーファーの左側、ホーンが2基のウーファーの右側)で設置することができますが、お勧めの方向はホーンが2基のウーファーの上に来る(図2)ようにすることです。最終的には、最適な設置方向は設置位置と部屋の状態によって決まります。

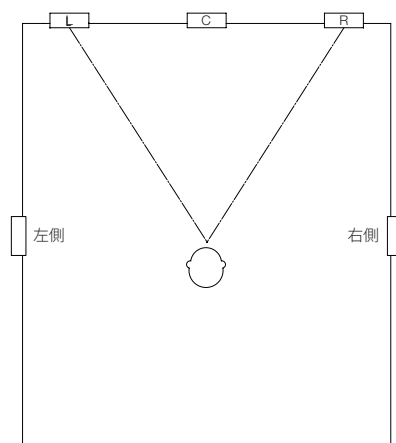


図1

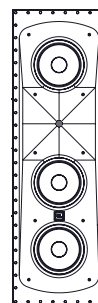


図2

センターチャンネル・スピーカー

SCL-2は、センターチャンネル・スピーカーとして使用する場合、縦向きまたは横向きのどちらかにすることができます。スピーカーが透過型プロジェクション・スクリーンで使われる場合は、左右のチャンネル・スピーカーの中心軸とできるだけ揃えるように、スクリーンの水平方向軸の中央裏側に設置します(図3)。

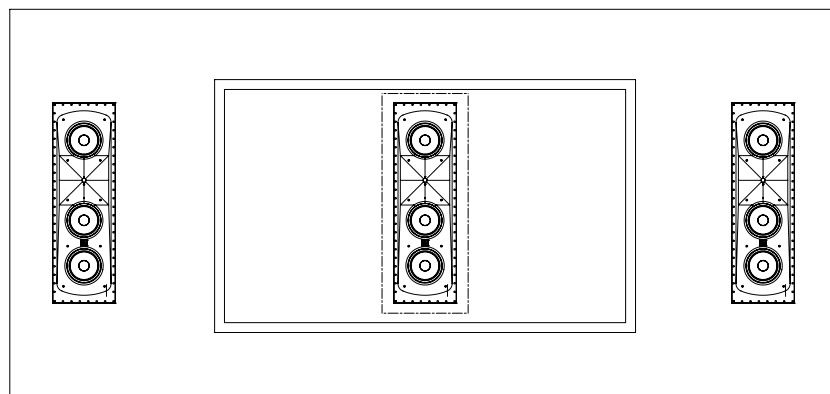


図3

注:透過型プロジェクション・スクリーンには、真ん中にスクリーン・フレームを横切る当て木のバーまたはクロスバーが存在する場合があります(図4)。その場合は、バーがホーン邪魔になっていないことをご確認ください。バーがスピーカーの前の、センター・ウーファーに最も近いほうのホーンの前を横切るようにスピーカーを縦向きに設置します。

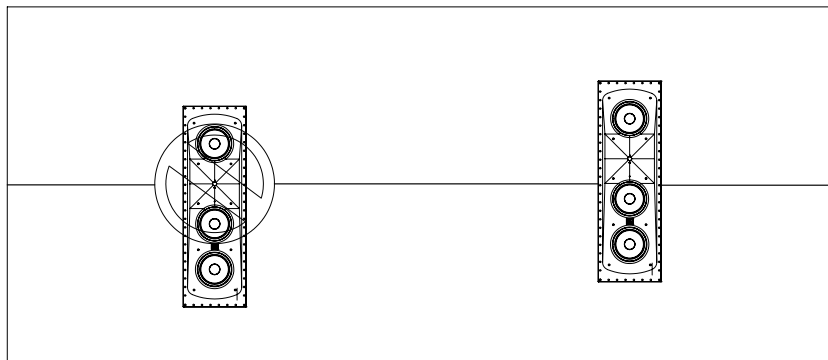


図4

非透過型プロジェクション・スクリーンの場合、設置時にLCD/プラズマ/OLEDディスプレイが使用され、SLC-2は直接スクリーンの下または上に横向きにし、できるだけビデオ・ディスプレイに近づけて使うことができます(図5)。

注:中央、左右のスピーカーを同じ高さに、できるだけ近づけて置くことが非常に重要です。センターチャンネル・スピーカーのホーンは左右スピーカーのホーンよりも2フィート(61cm)超高く、または低くします。これにより、サウンドが左から中央、右の方に流れているように感じられる「サウンドパン」の正確な定位が維持されます。プログラム・サウンドが上下に移動しているように感じられる場合も、リアルなパン効果の感覚を壊してしまう可能性があります。センタースピーカーとの高さの違いを軽減するには、左右チャンネル・スピーカーをわずかに低くします。L&R SLC-2を180°(上下反対に)回転させて、全スピーカーの聴覚上の高さをよりマッチさせることもできます(図5)。

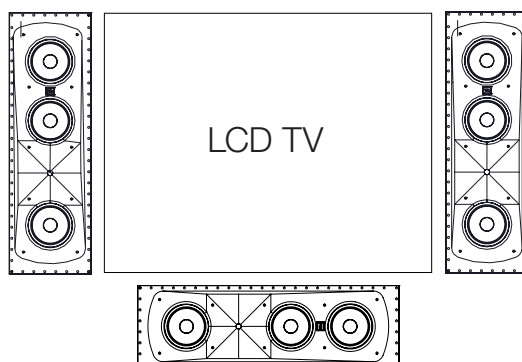


図5

サラウンド・スピーカー

SCL-2は、サラウンド・スピーカーとして選んでも理想的です。サラウンド・スピーカーの設置場所は最高のサラウンド音像を得るために非常に重要です。

5.1チャンネル・システム

サラウンド・スピーカーは、視聴用の一番前のイスよりもスクリーンから離れたサイドウォールに設置します。イスが2列ある場合は、スピーカーはその2列の間になるように設置します。サラウンド・スピーカーは座る位置より高いところ、座席の耳の高さよりも最低約61cm上に設置します(図6)。

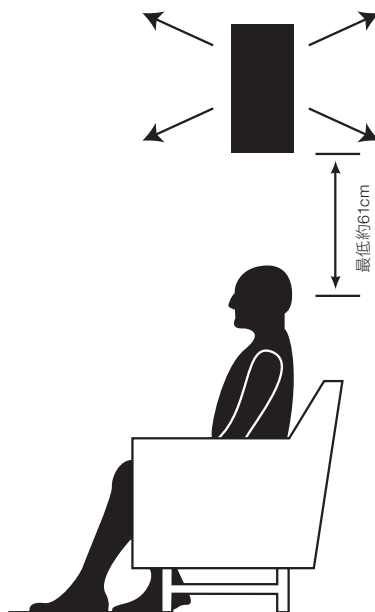


図6

7.1チャンネル・システム

7.1チャンネル・システムでは、5.1チャンネル・システムのサラウンド・スピーカーに加えて、背面に置く2基のスピーカーが追加されます。2基の追加されたスピーカーはリアウォールまたは天井のリアウォールの近くに設置します(図7)。

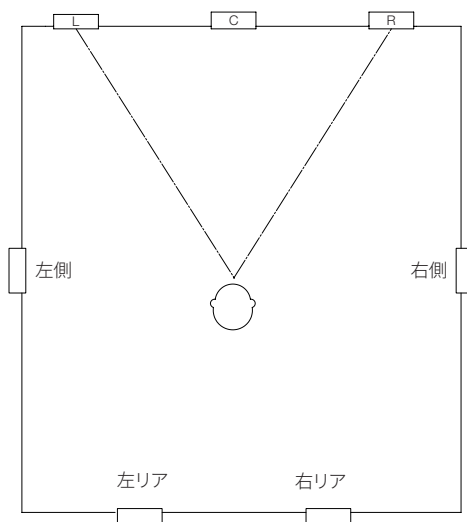


図7

設置時の一般的な注意点

1. リア・エンクロージャーとバッフル・ネットワークへの全配線接続を確認します。
2. 設置の前に、配線オプション(シングルワイヤー、バイワイヤー、バイアンプ)から選択します。
3. このスピーカーには、壁の奥行きが最低6インチ(152mm)必要であることにご注意ください。

スピーカーのアンプへの接続

Synthesis(シンセシス)SCL-2ラウドスピーカーをパワーアンプまたはレシーバーに接続するには、二心線の導線の絶縁されたスピーカー・ワイヤーを使用します。

ワイヤーの長さ	推奨サイズ
最高20フィート	14ゲージ
最高30フィート	12ゲージ
30フィート超	10ゲージ

SCL-2のパネ仕掛けのバイディング・ポストは最高#10 AWGの撚り線に適合しています。

接続ワイヤーを準備する

1. アンプと、各グループ(フロント、サラウンド、リア・サラウンド)の最も離れているスピーカー間の距離を決定します。
2. 適切なチャンネル・バランスを維持するため、1基のスピーカーが、最も遠いスピーカーよりもアンプにかなり近くても、各グループの全スピーカー用の接続ワイヤーを同じ長さにします。バイアンプかバイワイヤーのどちらかの方法を選択する場合は、バイアンプまたはバイワイヤー用の追加のワイヤーを準備することを忘れないでください。
3. 設置位置まで、壁沿いにワイヤーを通します。
4. 各導線の両端から絶縁部分を3/8インチはがして、各撚り線をひねってしっかりととめます。
5. スピーカーと電気端子はプラス電極(+)とマイナス電極(-)端子に対応しています。JBL Inc.を含むスピーカーと電子機器の大部分のメーカーは(+)端子を赤を使って示し、(-)端子を黒を使って示しています。接続前にご確認ください。

全てのスピーカーを同様に接続することが重要です。スピーカーの(+)をアンプの(+)に、スピーカーの(-)をアンプの(-)に接続します。システム内で、1基のスピーカーをもう1基のスピーカーと「逆相」(+と-および-と+)で配線すると、薄っぺらいサウンド、弱い低音、貧弱な音像になってしまいます。

スピーカーワイヤーの一对になっている、二心線の導線の見た目の違いを確認します。区別するための印は、異なる色のワイヤー(銅色または銀色)、1本の導線の撚り線、外側の絶縁体の一部にある薄く隆起したリブ、または外側の絶縁体の一部に印刷されたマークなどです。全スピーカーが全く同様にプラス電極(+)からプラス電極(+)、マイナス電極(-)からマイナス電極(-)に接続されていれば、2本の撚り線のどちらがスピーカーおよびアンプの(+)および(-)電極に接続されているかは問題ではありません(図8)。

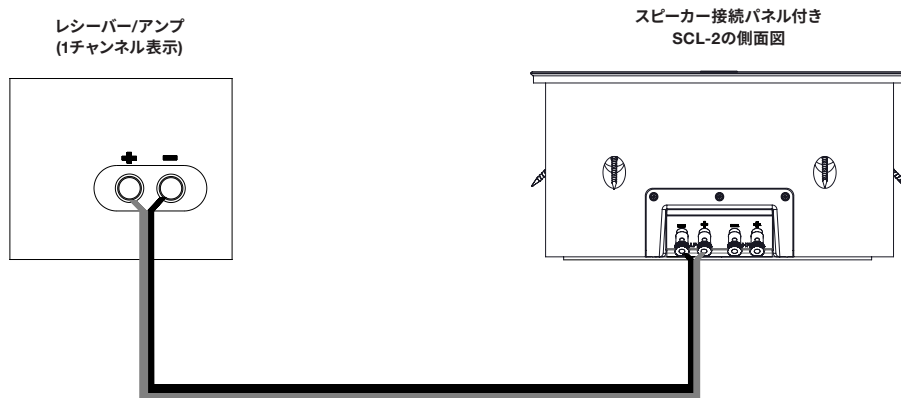


図8

バイワイヤーまたはバイアンプ・オプション

SCL-2には、バイワイヤーまたはバイアンプ操作ができるように、コネクタが2セットあります。

1. バイワイヤー・スピーカー用に、二対のワイヤーになるように切ります。
2. 低周波用の1組のワイヤーの両端に「LF」と印をつけ、高周波用のワイヤーの両端に「HF」と印をつけます。次に、2組のワイヤーを取付位置まで伸ばします。
3. 「HF」の印のついたほうをスピーカーの「HF」入力に接続し、「LF」の印がついたほうを「LF」入力に接続します。(図9)
4. バイワイヤーまたはバイアンプ接続されたスピーカーを設置する前に、2本の青色のジャンパー、バイアンプ・ジャンパーホットとバイアンプ・ジャンパーグラウンド(図10)を取り外します。青色のジャンパーはバックボックスの内側の端子カップに付いています。ワイヤーがコネクタに圧着される位置のすぐ下のジャンパー用コネクタを押し出して、コネクタのロックを解除します。うまくいかない場合は、プラスチックのカバーをワイヤーの上にスライドさせて戻し、ワイヤーを慎重に引っ張りながら、ボールペンか小型の工具でロック用のレバーを押し下げます。
5. この取扱説明書の指示に従ってバックボックスおよびスピーカーの設置を進めます。

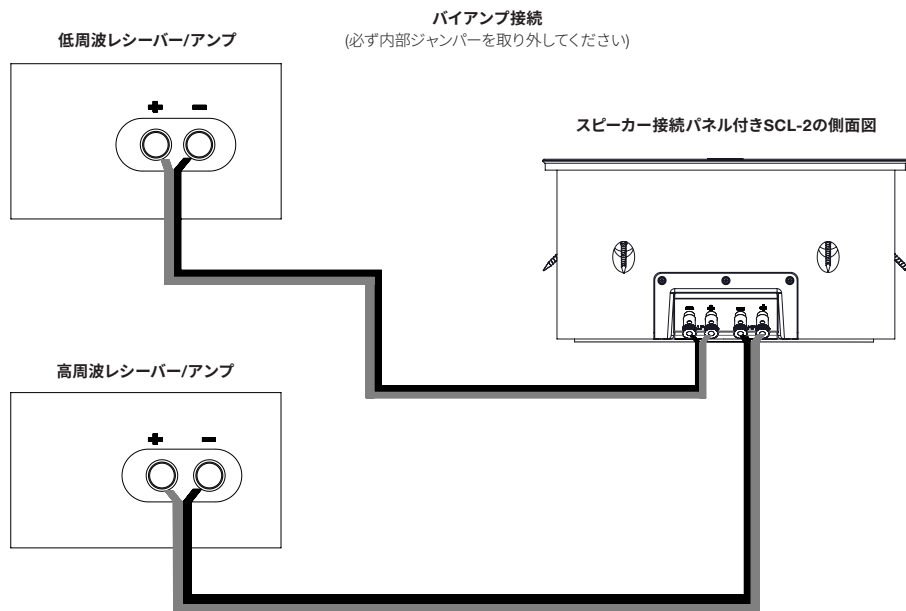


図9

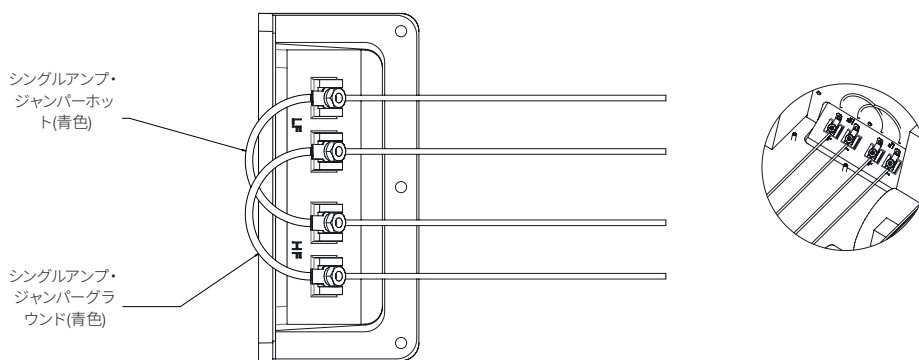
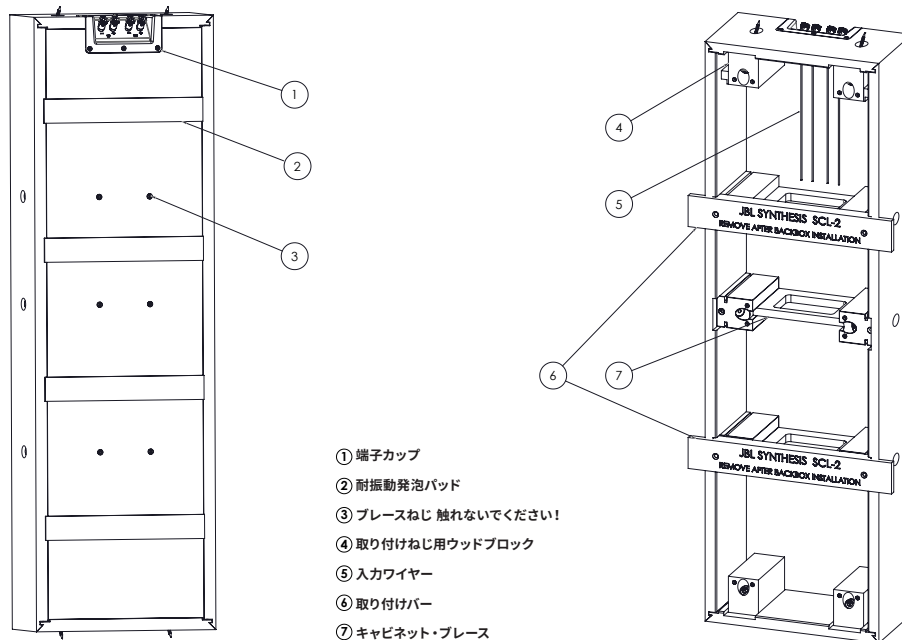


図10

バックボックスの設置



- ① 端子カップ
- ② 耐振動発泡パッド
- ③ プレスねじ 触れないでください!
- ④ 取り付けねじ用ウッドブロック
- ⑤ 入カワイヤー
- ⑥ 取り付けバー
- ⑦ キャビネット・プレス

図11

要注意:

JBL SYNTHESIS(シンセシス) SCL-2スピーカーを設置するには、壁の奥行きが最低6インチ(152mm)必要です。

SCL-2は大型で重いラウドスピーカーです。2人で設置を行うと、よりスムーズで安全です。この製品を設置する場合は、もう一人、手伝ってくれる人を確保しておくことを強くお勧めします。

Molex(モレックス)コネクタ付きのクロスオーバー・ネットワークがバックボックスの一端にあります。ドライウォールに穴を開けたり、バックボックスを設置する前に、ホーンの位置(ホーンが上、下、左、右)とスピーカーが望む方向になるように、バックボックスの方向が正しいことを確かめてください(図12)。



図12

縦向きに取り付ける場合、SCL-2は2つのウォール・スタッドの間に設置します。

ウォールスタッドを切る必要がある場合、それがベアリングスタッドに負荷をかけないことをあらかじめご確認ください。

注:図13は、SCL-2端子にスピーカーワイヤーを通すためのスタッドフレーム用の1個または複数の穴を開けるのに役立つ測定距離付きバックボックスの端子カップの端を示す図です。

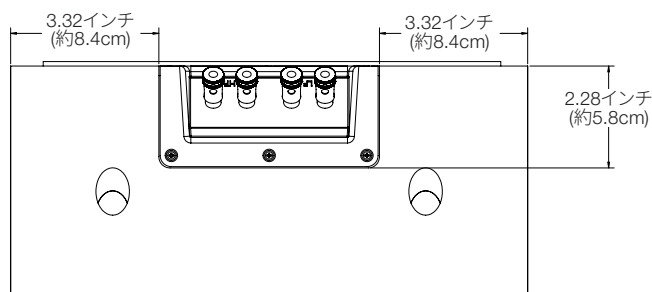


図13

縦向きを設置手順:

(横向きを設置については次ページに進んでください)

1. 底部のスタッドの位置から高さ46インチ(117cm)の位置のスタッドまで、ドライウォールに穴を開けます。これにより、側面のスタッドに2×6(50.8mm x 152.4mm)材、てっぺんと底面に2×6(50.8mm x 152.4mm)材を設置する十分な間隔ができます。
2. 38.5 x 11.75インチ(978mmx298.5mm)の内部寸法(図14)のフレームを作るため、2×6(50.8mm x 152.4mm)材を使用します。30cmの広い開口部にするために、木部の厚みをカナナ等で削る必要があります。お持ちのパーツを測定し、どれくらい削るべきかを計算してください。穴のサイズの余分なスペースにより、工具を使用して壁でフレームを組み立てることが可能です。くぎまたは木ネジでスタッドの位置にフレームを固定します。
3. 最高12個のスタッドで新しい2×6(50.8mm x 152.4mm)フレームの端(ドライウォールの施工後のみ)を新しいドライウォールにはめ込みます。補修やテープを使った作業が必要なことがあります。
4. 6ページで説明されている通り、バックボックスの天面の端子に信号ワイヤーを接続します。
5. 入力端子がホーンを置きたい位置に最も近くなる方向にバックボックスを向けます。
6. フレームで定められたスペース内にバックボックスを持ち上げます。**取り付けバーをつかんでバックボックスを持ち上げることは決してしないでください。**キャビネットプレースを持ってバックボックスを持ち上げてください。
7. バックボックスに十分な奥行きを確保するため、取り付けバーをドライウォールのフレームに置くことができます。新しい組立設置時は、ボックスの奥行きを確定するため、2×6(50.8mm x 152.4mm)フレームを不要なドライウォールの一部に仮留めします。
8. ドライウォールまたは木ネジを使ってドライウォール下部のフレームに取り付けバーまたはスタッドを固定します。取り付けバーを一時的にバックボックスの所定の位置に固定します。
9. 天面、底面、中央の取り付け用穴にラバーブッシュを取り付けます。5インチの各デッキねじにメタルワッシャーを取り付け、隣接する2×6(50.8mm x 152.4mm)フレームにラバーブッシュを通してねじをねじ込みます。取り付けた絶縁体(ブッシュ)が十分広がるくらいにねじを締めてください。しかし、この段階を超えて締めすぎないでください。
10. バックボックスがフレームに確実に取り付けられていることを確認し、取り付けバーを完全に取り外します。取り付けバーを捨ててください。
11. 残りの取り付け用穴でも手順8を繰り返します。

11ページのパッフルの組立配線および設置をお読みください。

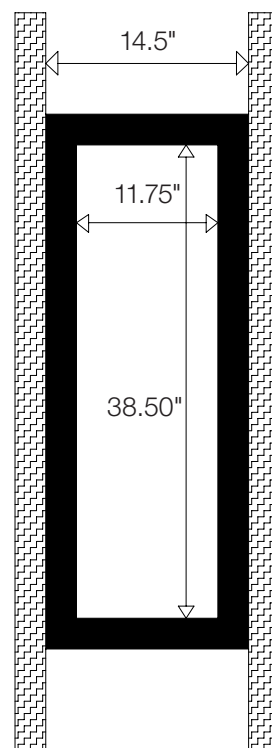


図14

横向きの設置手順:

新しい建築物(最初からドライウォール)に設置する場合は、手順1を飛ばしてください。

1. ドライウォールに幅46インチx高さ14.75インチ(1168.4mm x 374.7mm)の穴を開けます。穴の中心はビデオディスプレイの中心に合わせます。
2. SCL-2に必要なスペース(図15)内に落ちたウォール・スタッドを完全に取り除きます。**ウォール・スタッドがベアリングスタッドに負荷をかけないことをあらかじめご確認ください。**
3. 38.5 x 11.75インチ(978mmx298.5mm)の内部寸法(図16)のフレームを作るため、2×6(50.8mm x 152.4mm)材を使用します。穴のサイズの余分なスペースにより、工具を使用して壁でフレームを組み立てることが可能です。くぎまたは木ネジでスタッドの位置にフレームを固定します。
4. 新しい2×6(50.8mm x 152.4mm)フレームの端(ドライウォールの施工後のみ)を新しいドライウォールにはめ込みます。補修やテープを使った作業が必要なことがあります。
5. 6ページで説明されている通り、バックボックスの天面の端子に信号ワイヤーを接続します。
6. 入力端子がホーンを置きたい位置に最も近くなる方向にバックボックスを向けます。
7. フレームで定められたスペース内にバックボックスを持ち上げます。**取り付けバーをつかんでバックボックスを持ち上げることは決してしないでください。**キャビネットプレースを持ってバックボックスを持ち上げてください。
8. バックボックスに十分な奥行を確保するため、取り付けバーをドライウォールに置くことができます。新しく建築されたドライウォールへの取付時は、ボックスの奥行を確定するため、一番近いスタッドを、不要なドライウォールの一部に仮留めします。
9. ドライウォールまたは木ネジを使って取り付けバーをドライウォール下部のスタッドに固定します。取り付けバーを一時的にバックボックスの所定の位置に固定します。
10. 左、右、中央の取り付け用穴にラバーブッシュを取り付けます。5インチデッキねじにメタルワッシャーを取り付け、隣接する2×6(50.8mm x 152.4mm)フレームにラバーブッシュを通してねじをねじ込みます。取り付けけた絶縁体(ブッシュ)が十分広がるくらいにねじを締めてください。しかし、この段階を超えて締めすぎないでください。
11. バックボックスがフレームに確実に取り付けられていることを確認し、取り付けバーを完全に取り外します。取り付けバーを捨ててください。
12. 残りの取り付け用穴でも手順8を繰り返します。

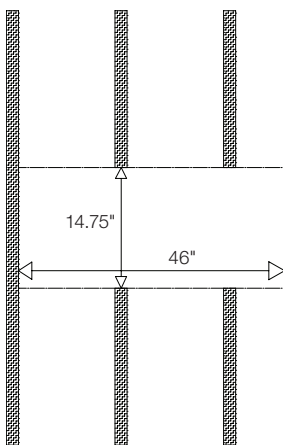


図15

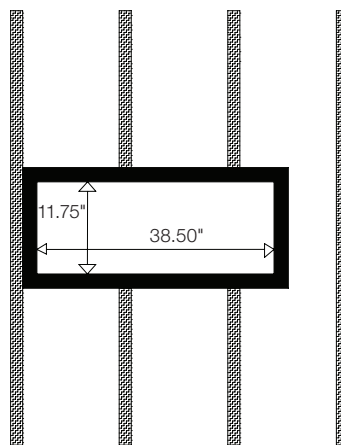


図16

バッフルの配線と設置

バッフルのバックボックスへの接続

SCL-2では、バッフルからバックボックス・エンクロージャーまでワイヤーを接続する必要があります。バッフルに接続された1組のワイヤーはMolex(モレックス)プラグであらかじめ終端処理されていて、そのプラグはバックボックス内のMolex(モレックス)ソケットに対応しており、そこに差し込むことができます。いったんバックボックスを設置し、バッフルの設置準備が完了したら、Molex(モレックス)プラグをソケットにカチッとはめ込みます(図17)。

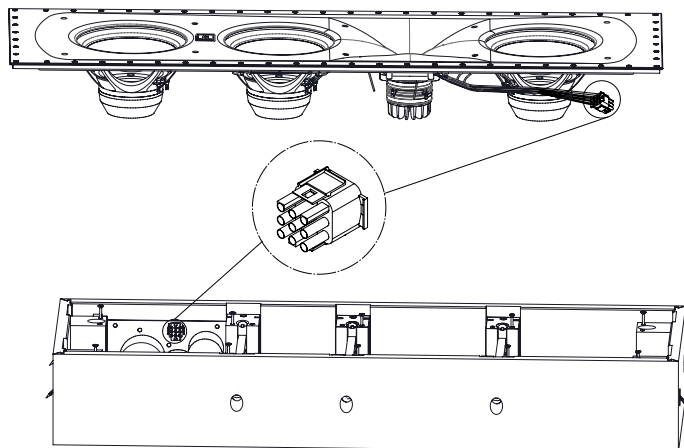


図17

注意:この図のバッフルは、単にバックボックス内でバッフルワイヤーとクロスオーバー・ネットワークのMolex(モレックス)接続を示す方向に向けられています。実際には、正しい向きはホーンがバックボックスのクロスオーバー・ネットワークの終端に向かう方向です(そのため、上のイラストのバッフルは、実際には上の図から180度回転させて、バックボックスに対して正しい方向に向けます)。

警告:

バッフル取り付けねじを締めすぎないでください! バッフル用ねじを固定するために電動工具を使用する場合は、ガスケットがちょうど設置面に接触する壁まで、バッフルを十分に引っ張られるように、一番低いトルク設定にします。ガスケットを適切に密封し、防振するには、残りの部分を最大で約8~16インチポンド(in-lbs)の力で、手で締めます。(これは、バッフル・ガスケットがちょうどエンクロージャーと壁面に接触した時点からの、ねじ頭の約1/2回転に相当します)。

1. バックボックスのスピーカー・バッフル信号線バンドルMolex(モレックス)プラグをMolex(モレックス)ソケットに接続します。コネクタは正しい接続がされた場合のみ、固定されます。**絶対に力を入れすぎないでください。**
2. ホーンが端子カップに近づく方向にSCL-2を向けます。
3. バックボックス内に組み立てたバッフルを配置します。バッフル・ガスケットはバックボックスの端に固定されています。**警告:**組立中、ワイヤーを挟まないように、バッフルを設置する際は端子接続ワイヤーを慎重に動かしてください。
4. 付属の10本のねじでバックボックスにバッフルを取り付けます(図18)。最初に、中央の取り付けねじを締めます。
5. 周辺のバッフル取り付けねじを固定して締めます(ねじの締めすぎについての警告をお読みください!)
6. 裏側に貼り付けられたJBLロゴを取り外し、正しい方向でグリルにはめ込みます。
7. ゼロベゼル・メタルをバッフル上に取り付けます。マグネットによって定位にグリルが引っ張られるので、てっぺんの端を揃えてグリルをそっとバッフルの上に「落とし」ます。バッフルのマグネットにより、グリルが固定されます。グリルが完全に壁に対して端が揃っていることを確かめます。バッフルに密着していないグリルは操作中に落ちることがあります。

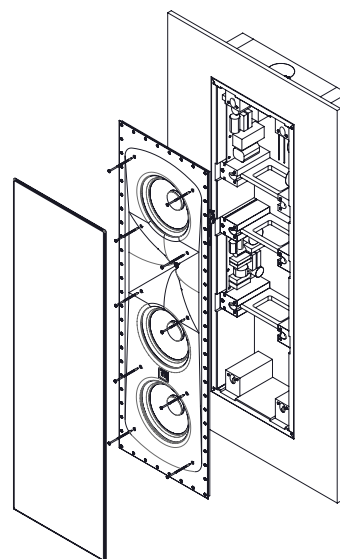


図18

仕様

仕様	SCL-2
スピーカータイプ:	2½-ウェイ・インウォール・ラウドスピーカー
低周波トランスデューサー:	トリプル8インチ(200mm)キャストフレーム、アドバンスド・アルミニウム・マトリックス・コーンウーファー
高周波トランスデューサー:	D2415K、1.5インチ(38mm)、Sonoglass®ホーン/バツフルに取り付けるデュアルリング Teonex® ダイアフラム・コンプレッション・ドライバー
最大推奨アンプ出力:	445W RMS(CEA-426B仕様、SCL-2の定格負荷インピーダンスで計算)
周波数特性 (軸上-6dB):	57Hz~25kHz
有効範囲(-6dB@20kHz):	80x70度(横方向x縦方向)
有効範囲(-6dB@10kHz):	100x100度(横方向x縦方向)
感度(2.83V@1m):	92dB
公称インピーダンス:	6Ω
クロスオーバー周波数:	225Hz; 1.3kHz
エンクロージャータイプ:	同梱のバック・ボックスを使用した密閉型インウォール・マウント
入力:	デュアル金メッキ・バインディング・ポスト
グリル付き仕上げ寸法(高さX幅X奥行):	40.2x12.8x6.13インチ(1020.8mmx325.5mmx155.6mm)
バックボックス付きカットアウト寸法(高さX幅):	38.5x11.75インチ(978mmx298.5mm)
バックボックス付き埋め込み寸法:	5.82インチ(147.8mm)
重量:	53.5ポンド(24.3kg)
仕上げ:	マットブラック、ホワイトの塗装可能グリル付き

Please visit JBLSYNTHESIS.COM for additional language support on the user manual.

Veillez visiter JBLSYNTHESIS.COM pour obtenir le mode d'emploi en d'autres langues.

Para obter o manual do usuário em outros idiomas, acesse JBLSYNTHESIS.COM

Ga naar JBLSYNTHESIS.COM voor de handleiding in andere talen.

Gå til JBLSYNTHESIS.COM for bruksanvisning på flere språk.

Если вам требуется дополнительные версии руководства пользователя на других языках, посетите сайт JBLSYNTHESIS.COM.

別の言語に対応したユーザーマニュアルを読むには、JBL.SYNTHESIS.COMにアクセスしてください。

사용자 설명서에 대한 추가 언어 지원은 JBLSYNTHESIS.COM에서 확인하십시오

请访问 JBLSYNTHESIS.COM 以获取其他语言版本的用户手册。

Visita JBLSYNTHESIS.COM para obtener el manual de usuario de soporte en idiomas adicionales.

Weitere Sprachfassungen der Bedienungsanleitung findest Du unter JBLSYNTHESIS.COM.

Si prega di visitare JBLSYNTHESIS.COM per i manuali di istruzioni in altre lingue.

Jos tarvitset ylimääräistä kieleen liittyvää tukea käyttöohjeesta, käy osoitteessa JBLSYNTHESIS.COM.

Gå ind på JBLSYNTHESIS.COM for at se betjeningsvejledningen på flere sprog.

Gå till JBLSYNTHESIS.COM för mer information om språk i användarmanualen.

Торговая марка:	JBL
Назначение товара:	Пассивная акустическая система
Изготовитель:	Харман Интернешнл Индастриз Инкорпорейтед, США, 06901 Коннектикут, г.Стэмфорд, Атлантик Стрит 400, офис 1500
Страна происхождения:	Китай
Импортер в Россию:	ООО «ХАРМАН РУС СиАйЭс», Россия, 127018, г.Москва, ул. Двинцев, д.12, к 1
Гарантийный период:	1 год
Информация о сервисных центрах:	www.harman.com/ru тел . +7-800-700-0467
Срок службы:	5 лет Товар не подлежит обязательной сертификации
Дата производства:	Дата изготовления устройства определяется по двум буквенным обозначениям из второй группы символов серийного номера изделия, следующих после разделительного знака «-». Кодировка соответствует порядку букв латинского алфавита, начиная с января 2010 года: 000000-MY0000000, где «М» - месяц производства (А - январь, В - февраль, С - март и т.д.) и «Y» - год производства (А - 2010, В - 2011, С - 2012 и т.д.).




Харман-Интернационал株式会社(HARMAN International, Incorporated)
8500 Balboa Boulevard, Northridge, CA 91329 USA

www.jblsynthesis.com

© 2017 HARMAN International Industries, Incorporated(Харман-Интернационал-Индустриэз株式会社)。無断複写・転載を禁じます。

JBLディファレンシャル・ドライブおよびHDIは、Харман-Интернационал-Индустриэз株式会社(HARMAN International Industries, Incorporated)の登録商標で、米国および/またはその他の国々で登録されています。

特徴、仕様および外観は、予告なしに変更されることがあります。

 パートNo.950-0550-001概要.A